

令和7年度 大阪府 英語教育改善プラン

目標

大阪の子どもたちの英語学習の特質を踏まえた4技能5領域の資質・能力（聞く・読む・話す〔やり取り〕・話す〔発表〕・書く）を総合的に向上させる

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☒ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①CAN-DOリストの作成・公表・達成状況の把握

	R5
作成	100.0%
公表	100.0%
把握	98.8%

②言語活動について、児童の興味・関心や必然性をふまえた場面設定がみられる。

●ICT機器の活用状況

①生徒がPC等を用いて発表や話すことにおけるやり取りをする活動
※25%未満の割合

R4	R5
26.0%	21.2%

②生徒による、発話や発音などの録音・録画※25%未満の割合

R4	R5
55.0%	51.0%

未だ改善が必要な点

2. 要因分析

①について

「大阪版CAN-DOリスト」を活用した取組み等により、英語力を見とる基準を共有することで、「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の公表及び達成状況の把握の数値が増加したと考えられる。

②について

小学校英語専科指導教員研修等を通して、言語活動について協議した内容を、各市町村に広めることで、言語活動の充実を図ることができたと考えられる。

①②について

・1人1台端末等のICT機器の活用は着実に進んできているが、ICT機器の機能を有効活用した授業づくりの工夫や、効果的な活用方法の共有が必要である。

○令和6年度に、AIによる自動採点機能付きデジタル英語学習ツール「BASE in OSAKA」を使用し、府内4小学校（義務教前期含む）で実証研究をすすめた。AIが教員の見取りを補助することで個別の学習状況が把握できるなど、一人一台端末を活用する様子がみられた。

3. 目標を達成するための施策・事業

①大阪版CAN-DOリスト活用促進

既に作成されたCAN-DOリストについて、「大阪版CAN-DOリスト」を参考に、各校で校種間の接続を意識した目標設定や学習評価ができるよう働きかける。

②リーダー教員を活用した授業の質的向上

府域小学校における、言語活動に係る授業改善や、英語教育推進に係る取組みの充実に向けて、各連絡会や英語教育Webフォーラム等において府の取組みについての普及・発信、情報交換や協議を実施する。

①②デジタル学習ツールを効果的に活用した言語活動の充実に向けた取組みの推進

発信力強化のためのモデル校を指定し、府独自のデジタル学習ツール「BASE in OSAKA」により、AI等のデジタル技術の活用が、児童の発信力や意欲の向上にどのようにつながるかについて、活用方法・状況とパフォーマンステストの結果との関連性や、児童アンケート等から分析・検証する。

AIを活用した効果的な英語授業等に関する実証研究の推進

ICTを効果的に活用し、英語教育における言語活動の質を高め、4技能5領域の資質・能力をバランスよく向上させて、児童生徒の発信力強化につなげる

○英語の授業における話すこと、書くことに関する活動や評価について、AI等を活用するモデル構築に向けた取組み

○BASE in OSAKAを授業や家庭学習、パフォーマンステスト等で効果的に活用した実践についての研究

○公開授業・実践報告等による取組の普及・発信

<成果の普及・発信のための取組み>

・AI英語デジタル学習ツール活用事例リーフレットの作成

・英語教育Webフォーラムの開催

・イングリッシュキャンプの実施(英語によるコミュニケーションを図る機会の創出)

<一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組み>

小学校を対象とした英語加算制度を導入（平成28年度実施試験より順次、加算対象となる試験を拡大。英検、TOEFL iBT、IELTS、GTEC等）CEFR C1レベル程度で40点、B2レベル程度で20点、B1レベル程度で10点加算

令和7年度 大阪府 英語教育改善プラン

目標

大阪の子どもたちの英語学習の特質を踏まえた4技能5領域の資質・能力
(聞く・読む・話す〔やり取り〕・話す〔発表〕・書く) を総合的に向上させる

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6 : 54.1% ⇒ R7 : 56%)

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①生徒の英語力 (CEFR A1相当の割合)

	R5	R6
CEFR A1 取得+相当	51.2%	54.1%

・「CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数」の割合が約2.9%増加した。

②教員の英語力 (CEFR B2相当の割合)

	R5	R6
CEFR B2 以上取得	39.0%	39.6%

・「CEFR B2レベル相当以上取得」の教員の割合が約0.6%増加した。

● ICT機器の活用状況

①生徒がPC等を用いて発表や話すことにおけるやり取りをする活動
※25%未満の割合

R5	R6
26.0%	18.4%

②生徒による、発話や発音などの録音・録画※25%未満の割合

R5	R6
51.0%	43.1%

2. 要因分析

①について

「大阪版CAN-DOリスト」を活用した取組み等により、英語力を見とる基準の一つとして共有できた結果、生徒の英語力を適正に評価し、生徒の課題に対応した個に応じた支援ができたことが生徒の英語力につながったと考えられる。

②について

外国語教育担当指導主事連絡会や中学校英語コーディネーター連絡会を通して、教員の英語力・指導力の向上について協議した内容を、各市町村に広めることで、教員の英語力・指導力向上につながったと考えられる。

①②について

・1人1台端末等のICT機器の活用は着実に進んできているが、ICT機器の機能を有効活用した授業づくりの工夫や、効果的な活用方法の共有が必要である。

○令和6年度に、AIによる自動採点機能付きデジタル英語学習ツール「BASE in OSAKA」を使用し、府内4中学校（義務教後期含む）で実証研究をすすめた。AIが教員の見取りを補助することで個別の学習状況が把握できるなど、一人一台端末を活用する様子がみられた。

3. 目標を達成するための施策・事業

①大阪版CAN-DOリスト活用促進

既に作成されたCAN-DOリストについて、「大阪版CAN-DOリスト」を参考に、各校で校種間の接続を意識した目標設定や学習評価ができるよう働きかける。

②リーダー教員を活用した授業の質的向上

府域中学校における、教員の英語力・指導力の質の向上、英語教育推進に係る取組みの充実に向けて、各連絡会や英語教育Webフォーラム等において府の取組みについての普及・発信、情報交換や協議を実施する。

①②AIを効果的に活用した、言語活動の充実にに向けた取組みの推進

発信力強化のためのモデル校を指定し、府独自のデジタル学習ツール「BASE in OSAKA」により、AI等のデジタル技術の活用が、生徒の発信力や意欲の向上にどのようにつながるかについて、活用方法・状況とパフォーマンステストの結果との関連性や、生徒アンケート等から分析・検証する。

AIを活用した効果的な英語授業等に関する実証研究の推進

ICTを効果的に活用し、英語教育における言語活動の質を高め、4技能5領域の資質・能力をバランスよく向上させて、児童生徒の発信力強化につなげる

○英語の授業における話すこと、書くことに関する活動や評価について、AI等を活用するモデル構築に向けた取組み

○BASE in OSAKAを授業や家庭学習、パフォーマンステスト等で効果的に活用した実践についての研究

○公開授業・実践報告等による取組の普及・発信

<成果の普及・発信のための取組み>

- ・AI英語デジタル学習ツール活用事例リーフレットの作成
- ・英語教育Webフォーラムの開催
- ・イングリッシュキャンプの実施(英語によるコミュニケーションを図る機会の創出)

未だ改善が必要な点

令和7年度 大阪府 英語教育改善プラン

大阪の子どもたちの英語学習の特質を踏まえた4技能5領域の資質・能力
(聞く・読む・話す〔やり取り〕・話す〔発表〕・書く) を総合的に向上させる

- CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6 : 58 % ⇒ R7 : 59 %)
- CEFR B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6 : 24 % ⇒ R7 : 26 %)

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合

R5	R6
56.1%	57.8%

②授業における、生徒の英語による言語活動の割合

R5	R6
80.0%	83.3%

③CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合

R5	R6
73.9%	78.0%

- ①教員の英語力は向上しているものの、さらなる改善が必要である
- ② CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が24%と向上しているものの、改善の余地がある

2. 要因分析

①②について
全日制の高校に週5日、定時制の高校に週1日ネイティブ講師を配置し、生徒が英語でコミュニケーションをとったり、授業で学んだ英語を活用したりする機会を提供したことで、生徒の英語力向上につながった。

②③について
生徒の英語4技能をバランスよく向上させる指導法等についての研修を実施するとともに、教育課程協議会や研修等において、情報共有や好事例の共有を行うことで、授業改善が進み、生徒の英語による言語活動の割合が増加した。また、教員の英語力向上に向けた研修を実施することで、CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合が増加した。

- ①について
多忙化のため、英語力や英語指導力など、個人の専門性の向上のために研修に参加したいと思っても、時間を費やすことができない教員が多い。
- ②について
将来グローバルに活躍することが期待される層を対象とした取組みが不十分。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②授業内外での英語を使う機会の提供
ネイティブ講師の配置を継続するとともに、授業で学んだ英語を活用しながら、ネイティブスピーカーとのコミュニケーションをとるイングリッシュキャンプを実施。また、令和7年度より姉妹校交流事業を実施し、全ての府立高校が海外の学校と姉妹校提携を締結し、生徒が現地の学生と交流できる機会を提供するとともに、府独自のデジタル英語学習ツール「BASE in OSAKA」を全1年次生に導入することで生徒が授業内外でより英語を使うことができる環境を整備。
- ①②デジタル学習ツールを効果的に活用した、言語活動の充実に向けた取組みの推進
発信力強化のための英語教育実証研究校を指定し、「BASE in OSAKA」により、AI等のデジタル技術の活用が、児童生徒の発信力や意欲の向上にどのようにつながるかについて、活用方法・状況とパフォーマンステストの結果との関連性や、児童生徒アンケート等から分析・検証。

AIを活用した効果的な英語授業等に関する実証研究の推進

ICTを効果的に活用し、英語教育における言語活動の質を高め、4技能5領域の資質・能力をバランスよく向上させて、児童生徒の発信力強化につなげる

- 話すこと、書くことに関する活動や評価について、AIを英語の授業で活用するモデル構築に向けた取り組み
- 「BASE in OSAKA」を授業や家庭学習、パフォーマンステスト等で効果的に活用した実践についての研究
- 公開授業・実践報告等による取組の普及・発信

- ③教員に対する情報発信・研修の継続
教育課程協議会や教員研修を引き続き実施。
- ①教員研修の実施
英語教員の指導力の向上に加え、英語力の向上を目的とした悉皆研修を実施（教員経験5年め～8年め対象）。
- ②生徒研修の実施
グローバルに活躍することが期待される層の拡充のため、海外の高校生とディスカッションを行う国際会議を実施。

目標達成状況一覧表

令和7年度様式（様式2）

大阪府教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	52	56.1	57	57.8	59		60		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	21	18.6	21	23.9	26		28		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	71	80	80	83.3	85		85		85	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	46	38.9	46	36.3	47		48		49	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	99.4	100		100		100		100
		公表(%)	100	97.7	100		100		100		100
		達成状況の把握(%)	100	97.7	100		100		100		100
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	72	73.9	74	78	78		79		80	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	67	66.3	67	68.5	68		69		70	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	52	51.2	54	54.1	56		58		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100	98.8	100		100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	99.3	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	39	50	39.6	50		50		50	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	97.1	100		100		100		100	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	98.8	100		100		100		